

質問 3-1 大戸川における戦後最大洪水である昭和 57 年の氾濫実績と氾濫シミュレーションの結果が、現実とあまりにも違います。過去の水害被害をどのように把握されているのか、教えてほしい。

(回答)

- 氾濫シミュレーションによる被害想定は、昭和 57 年台風 10 号による洪水が再来したときに想定される最大の被害を算出し、結果 350 戸の床上浸水が生じると想定しています。
- この計算は、全国的に用いられる治水経済調査マニュアルに基づいて一定の仮定に基づき予想される最悪の被害を求めたものです。これは、災害への対応を考える際には、防災を担当する行政として、想定の外力に対し考えられる最悪の被害をあらかじめ把握しておくことが一般的です。
- 実際に生じる被害は、堤防のどの地点で決壊するのにかによって大きく異なることがあり、また、シミュレーションによる氾濫被害とは、現時点の資産、家屋等の状況を基に算定しているため、洪水発生時のものとは異なることもあり得ることから、必ずしも氾濫被害の実態とは一致していません。
- 防災を担当する行政としては、最悪の事態をあらかじめ把握しておくのが一般的です。

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。